

国立スポーツ科学センター（JISS） オプトアウトにより実施する研究

| | |
|------------------|--|
| 研究課題名 | フィットネスチェックデータを用いた成長期エリート男子選手におけるリバウンドジャンプ能力の発達特性に関する研究 |
| 倫理審査委員会承認番号 | 2026-002 |
| 研究開始日 | 2026年5月11日 |
| 研究終了日 | 2031年3月31日 |
| 研究目的 | 成長期における連続ジャンプ能力の発達の特徴を、その構成要素である跳躍高と接地時間に着目しながら縦断的に検討することを目的とします。成長期の選手の発育過程に沿ったトレーニングを提案し、長期的な視点に立った効果的な能力向上を実現させることを目指します。 |
| 研究対象者 | JISSの過去フィットネスチェックに参加した17歳以下の男子選手のうち、以下基準を満たす選手のデータを使用します。・連続リバウンドジャンプの測定を実施している。・14歳未満に初回の測定が行われ、17歳までに3回以上の測定実績がある。・身長が最も大きく伸びる年齢（PHVA）を推定し、これより前時点の測定データが存在している。 |
| 研究概要 | 下肢をばねのように使う連続ジャンプ能力の評価法のひとつにリバウンドジャンプがあり、跳躍高を接地時間で除して算出されるRJ-indexが指標として用いられます。跳躍高と接地時間は異なる生理学的要因によって決まり、跳躍中は互いにトレードオフの関係にあることから、この能力の発達を捉えるにはRJ-indexだけでなく跳躍高や接地時間の変化も合わせて検討する必要があります。この連続ジャンプ能力を適切に向上させるためには、成長期の急激な身体発育を踏まえた、計画的かつ長期的なトレーニングが必要だと考えられます。本研究は、個人の成熟度を考慮しながら、成長期選手の連続ジャンプ能力の発達過程を縦断的に検討します。JISSのフィットネスチェックにおいて蓄積されたデータから検討可能な選手を抽出し、PHVA前後における連続ジャンプ能力の変化を、RJ-index、跳躍高、接地時間に着目して明らかにします。 |
| 研究に用いる情報の種類 | 身長、体重、形態計測値（上肢長・下肢長・四肢と体幹各部の周径囲）、リバウンドジャンプ計測値（RJ-index、跳躍高、接地時間）、垂直跳 |
| 研究の資金源 | 本研究の資金源は JISS内予算 です。 |
| 研究に係る利益相反及び個人の収益 | 本研究に係る利益相反や個人の収益はありません。 |
| 研究責任者 | 松林武生／スポーツ科学研究部門 |
| 共同研究者 | 中村隼人、谷村祐子、山下大地、沼津直樹（以上、スポーツ科学研究部門） |
| 問合せ先 | 松林武生・スポーツ科学研究部門・電話：03-5963-0250・E-mail：takeo.matsubayashi@jpnssport.go.jp |